

中国内陸部貧困地域における高校生を持つ親の教育期待

—江西省 J 県を事例に—

劉薈

中央大学大学院

概要：本稿は、中国内陸部貧困地域の J 県を取り上げ、高校生を持つ親へのインタビュー調査データを用いて、子どもの大学進学地域に対する親の教育期待とその理由について検討し、社会関係資本は親の教育期待に影響を与えることが明らかにしたものである。得られた知見は以下のようにまとめられた。まず、出身地域や階層要因は子どもの大学進学地域に対する親の教育期待に影響を与えることがわかった。次に、その親の教育期待が形成される理由として、家族ネットワークから生み出された人脈、情報やコネクションという社会関係資本は親の教育期待に影響を与えることが確認された。最後に、親同士間ネットワーク・親と学校教師間のネットワークといった家族外社会関係資本は親の教育期待を高める効果があることが見られる。

キーワード： 高校生 大学進学 親の教育期待 社会関係資本

Parental Educational Expectations with High School Students in Poor Inland China -Taking J County of Jiangxi Province as Example-

LIU HUI

Graduate Student, Chou university

Abstract: *In this paper, parental educational expectations of their children's location choice of higher education and concerning reasons were examined by using data from interviews with parents of high school students in J County, a poor inland region of China. It was found that social capital affects parental educational expectations. The findings were summarized as follows: Firstly, it is obvious that living in urban or rural areas and classes influence parental educational expectations. Secondly, as a reason for the formation of parental educational expectations for the location choice of higher education, it is apparent that social capital, such as information, and connections generated from family networks, influenced parental educational expectations. Thirdly, social capital outside families such as parent-to-parent networks and parent-to-teacher networks has been found to enhance parental educational expectations.*

Keywords: *high school students, high education, parental educational expectations, social capital*

1. はじめに

中国では、高校に在学する生徒のほとんどは大学への進学を希望している(鮑 2010)。このような強い大学進学熱を支えているのは、親の学歴信仰や教育期待であると考えられる。中国社会では、こうした親の教育期待(特に高学歴志向)は「望子成龍、望女成鳳(男子は龍に、女子は鳳に)」⁽¹⁾と表現されている。この言葉からも、立身出世信仰によって、子どもが高学歴を取得することに期待していることが読み取れる。高度成長期の日本と同様に、中国においても、あらゆる社会層が学歴主義競争に巻き込まれている状態である。

同時に、親の教育期待は、家族の社会背景によって強く規定され、階層間格差があることがよく指摘されてきた。具体的には、職業構造の変化や所得格差の拡大に伴い、①親の職業が、子どもの大学進学への期待において大きな影響を及ぼす(許 1999)、②親の経済力があるほど、子どもの大学進学に対する教育期待が高くなる(中澤 2009)、③親の学歴が高いほど、子どもの大学進学に対する親の教育期待が高くなる(藤原 2009)。このように、親の収入や学歴などは、教育期待の形成の重要な要因として、間接的に子どもの教育達成にも影響を与える。

しかしながら家族の社会背景は、経済資本(収入)や人的資本(学歴)だけによるのであろうか。近年、社会関係資本(いわば、人のつながりやコネ)も一つの構成要素となっているとする指摘がなされる(例えば、Coleman1988)。いいかえれば、収入や学歴がどのように親の教育期待に影響を与えるかのメカニズムが解明されないと、仮に収入や学歴が低い親にもかかわらず教育期待が高い事例や、収入や学歴が高い親でも教育期待が低い事例を説明することができないといえる。そればかりでなく、社会関係資本には、様々な経済資本あるいは人的資本を獲得するチャンスを提供する側面がある(荒牧 2016)。仮により啓発的な人に出会うと、あるいはより有力者と関係があると、親の教育期待に影響がでると推測される。すなわち、親の教育期待における社会関係資本の影響に焦点を当てる研究が求められるのは、こうした事例が中国社会には多々あるからである。

以上の問題意識に基づいて、本稿では、中国内陸部貧困地域江西省のJ県を取り上げ、高校生の子どもの持つ親が子どもの大学進学に対してどのような教育期待を抱くのか、そのメカニズムを、社会ネットワーク論などを参照しながら、社会関係の資本との関係から検討したい。

2. 先行研究と課題設定

(1) 大学進学に対する親の教育期待

中国においては、子どもの大学進学には、親の教育期待が大きな影響を果たしていることが実証されている。例えば、王・時(2014)は「上海居民家庭生活状況調査」(N=1181)のデータに基づいて、親の教育期待・子どものアスピレーション・家庭背景などを独立変数として投入しており、子どもの大学進学に関する重回帰分析を行った。分析の結果、他の要因に比して、親の教育期待が高いほど、子どもが大学に進学する可能性が高いことが分かった。

一方、親の教育期待は社会階層と関連があることもよく指摘されてきた。たとえば、劉・張・李(2014)は、2010年「中国家庭追跡調査」(CFPS)の調査データを利用し、

子どもの大学進学に対する親の教育期待に関するロジスティック回帰分析（相関分析）を行った。分析の結果、親の収入や学歴などが親の教育期待の規定要因として、親の収入や学歴が高いほど、子どもへの教育期待が高くなることが明らかにされた。親の教育期待は、本人の収入や学歴からの影響を間接的に通しつつ、さらに子どもの教育達成にも影響するという。

また、張（2021）は、中国山東省の省都済南市の高校生を対象とする量的調査の分析を通して、中国都市部における教育機会の階層間格差の実態と、その格差の形成メカニズムを分析した。この研究では、階層要因が主観的な個人の価値志向までに影響を与えており、上層家庭は大学の地位を重視し、下層家庭は経済的負担を重視する傾向が示された。このように、家庭の社会階層によって、子どもの大学進学に対する親の教育期待が大きく左右されることを推測できる。

以上の先行研究では、子どもが大学に進学することに期待するかどうかに注目したが、どこの大学いわゆる大学進学地域に対する教育期待のアプローチが必要となる。なぜなら、高等教育機関の地域間格差が存在している中国において、地元の大学でよいかあるいは大都市の大学がいいかは、大学進学の質を左右するからである。既存の大学進学地域の選択の要因に関する研究（李・孫 2018）では、全国14省の19の大学において、2747名大学生に対するアンケート調査を実施した。同研究では、子どもが大学進学地域を選択する時に、「親の意見」と「家族の社会ネットワーク」が最も重要な要因となっていることが明らかにされた。中国において、家族のネットワークから得られた情報が、大学進学地域の選択に影響を与えると考えられる。

また、大学進学に伴う地域移動の実態に関して、「移動して大学進学」（地元の省から他の省への進学）の割合が22.4%を占めると同時に、地域移動の流れには「内陸部の省から、東南沿岸部の省あるいは高等教育機関が集中している大都市へ」という方向性がある（劉・藩 2016）。そのため、内陸部出身の子どもが大学に進学する際に、こうした進学地域の特性も考慮する必要がある。

本稿では、中国内陸部貧困地域を事例とするため、親が子どもの大学進学地域に対してどのような期待を抱くのかも検討する。具体的には、「大都市志向」（地元の省から他の省への進学）と期待しているのか、「地元志向」（地元の省でそのまま進学）を抱いているのかを明らかにする。

（2）家族の社会関係資本

社会関係資本（Social Capital）についての定義は論者によって多様に用いられている。中国でなされた社会関係資本に関する多くの研究は、社会関係資本を、ネットワークから獲得できる資源に重きを置いて、認知的な当事者の感じ取っている人間関係より、構造的な社会関係資本に焦点付けて検証されている。例えば、辺（2004）によれば、社会関係資本は社会ネットワークの資源であり、ある個人のネットワークから生み出される人脈、情報やコネクションといった資源でもある。Lin（2001）も指摘する通り、他の資本形態と異なり、社会関係資本は行為者間の関係の構造に内在し、行為者が利益のために社会ネットワークを通じて獲得できる資源である。

では、社会ネットワークを生み出すメカニズムは何であろう。佐藤（2018）は、このメカニズムは大きく同類原理と異類原理に分けられるという。同類原理とは、人が自分と同じ特性を持った人とつながるというものである。典型的な例として、

家族や親族のような血縁で結ばれている関係である。この同類原理に基づく社会ネットワークの形成は、同じ特性を持った行為者からなる密な社会ネットワークを基盤とする結束型ソーシャル・キャピタル (Putnam 2000=2006) に変換されうる。

これに対して、異類原理は、人が自分とは異なる特性を持った人とつながるといふものである。たとえば、自分とは異なる職業の人、異なる年齢の人などにつながるといふことである。この異類原理に基づく社会ネットワークの形成は、異なる特性を持った行為者からなる比較的な疎な社会ネットワークを基盤とする橋渡し型ソーシャル・キャピタル (Putnam 2000=2006) を生み出す傾向が強い。

このように二つの原理を比較すれば、同類原理はもともと血縁関係のような属性的な関係から生じていることから、人間のごく自然な性向から生まれるのに対し、異類原理はチャンスの情報を得るため、自分の業界を超えた人脈を作るといふ意図的な行動に用いられる。

また、社会関係資本は、「親同士が社会関係で結ばれているようなコミュニティであったり、親がコミュニティの諸機関と関わりを持ったりしている場合」には存在している (Coleman, 1988=2006)。そして、コールマンの視点から、親同士が社会関係で結ばれているようなコミュニティであったり、親がコミュニティの諸機関と関わりを持ったりする場合、そこには社会関係資本が存在する。つまり、親同士の相互関係 (親同士のネットワーク) や親とコミュニティの諸機関のつながり (例えば、親と学校教師のネットワーク) から社会関係資本が生まれるという獲得経路が予想される。

同時に、親のネットワークに埋め込まれた社会関係資本は、様々な教育効果を有していることが明らかされている。親同士のネットワークの教育効果について、Coleman (1988=2006) は、「世代間閉鎖性」(親同士のネットワーク) に着目し、宗教的コミュニティによって世代間閉鎖性が高いカトリック系学校では、他の形態の学校より中退率が低いということを指摘している。すなわち、親が子どもを相互に監督できるような親同士のネットワークには社会関係資本が存在しており、子どもの教育に関する情報を共有することで、子どもの中退率の抑制に対する効果を及ぼしている。

一方、親と学校教師のネットワークの教育効果について、松岡 (2019) は、厚生労働省が収集する 21 世紀出生児縦断調査の個票データを用いて、親の学校社会関係資本 (学校関与) が子どもの学校適応との関連を実証した。分析の結果、親は学校教師とつながりを持ち、そのネットワークから、学校における子どもに関する内部情報を得て、学校生活の問題に対応することで、子どもの学校適応が促されていることが明らかされた。

それに、社会関係資本はさまざまな教育効果を持っているからこそ、社会関係資本の偏在は人々の間に進学機会の不平等をもたらす可能性がある。たとえば、全国サンプルをした趙・洪 (2012) の研究では、「親同士のネットワーク」 (=子どもの友だちの親と知り合いの数) と「親と学校教師間のネットワーク」 (=親と教師との連絡の頻率) を社会関係資本の指標として設定し、社会関係資本と教育機会の関係を分析した。分析の結果、社会関係資本が多く保有する家庭ほど、ランクが高い学校に進学する可能性が高いことを指摘している。

また、中国の学校では、親が参加できる学校行事は少なく、学校教師と交流できる機会が限られている。その結果、豊富な社会関係資本を保有している親は、学校と良い関係を作るため、積極的に教師の家に訪問し、学校の教師と教育関係者に食事を招待することがある。一方で、豊かな社会関係資本を保有していない親は、子どもが不良行為をした時に学校からの連絡を待つ受動的な状態であるという（李 2009）。

上述した研究には、一定の実証性はあるが、共通する欠点が存在する。それは、「戸籍制度により農村と都市ごとに分断されている⁽²⁾」という中国における重要な構造的特性が見逃されているということである。都市部では、職業の多様性によって都市住民が豊富な社会ネットワークを保有し、豊富な教育情報が流通し、社会活動力が強くなる（範 2006）。その一方、農村部では、特に貧困地域の農民は主に農業に従事しているため、社会関係づくりは地域内部に限定されているため、血縁・地縁などの異質性が低いネットワークが形成されている（黄 2009）。そして、農村部の親のネットワークは概ね農民で構成され、農業の伝統的な文化が教育に関する情報の流通に影響を与える（張 2016）。つまり、都市住民と農村住民が所有する社会関係資本の地域間格差が存在し、子どもの教育に影響を与えると言える。

上記の検討を踏まえ、社会関係資本は、行為者間の相互関係の構造に内在し、行為者が見返りを期待した社会関係に対する投資を通じて獲得できる資源であると定義される。本研究の目的に合わせて、親と関連づけられる社会関係資本をいくつか提示する。具体的には、①親同士のネットワーク、②親と学校教師のネットワークといった種類に分ける。データを分析する際には、農村・都市という地域の特性を考慮し、親同士間ネットワークや親と学校教師間ネットワークという2つの側面から、親の教育期待には社会関係資本がどのような影響を与えるのかを検討する。

3. 本調査の対象と地域の現況について

2018年2月から3月に、中国内陸部貧困地域江西省のJ県において、調査時点で高校生の子どもの持つ親（16名）に対して、半構造的インタビューを約30-60分間実施した。すでに事前に、高校生を対象とした進学志向や家庭生活などに関するアンケートを実施して、その後、聞き取りをした。

調査地域は、中国の内陸部地域江西省のJ県を選定した。江西省では人口は4622.1万人（2017年）で、高等教育機関が少なく、重点大学⁽³⁾は1つしか設置されておらず、受験競争が激しい。中国の内陸部貧困地域の山間地帯に位置し、J県は『中国農村貧困削減開発（2011-2020）』により指定された11の特別貧困地域の一部である。J県は、森林が81.2%、人口は16.8万人である。その中で、都市人口が39.09%、農村人口が60.91%を占めている。第一次産業中心の地域であり、観光産業と国家支援が財政を支えている。J県には、教育資源が豊富ではなく、高校は一つしかない。その結果、多くの子どもが他の県や市⁽⁴⁾の高校へ越境して進学している。

中国には、中央集権化と計画化の影響で、各大学が入学定員を各省に割り当て、それに相当する人数の学生を省別で募集する「大学省別生徒募集制度」がある。大学が教育研究活動に必要な資源と学生就職市場を確保するために、地元により多くの定員を割り当てる（竇 2007）。これによって、大都市や東南沿岸部経済発展地域に集中している各重点大学は所在地に多くの募集定員数を配分し、その地域出身の学生は良質な高等教育機会に恵まれている一方、重点大学が極めて少ない内陸部においては、重点大学に進学

するために、特に貧困地域の生徒はさらなる過酷な受験競争に巻き込まれている。

調査対象者の募集は、できるだけ多様な対象者を扱うように二つの段階で行った。第一段階では、機縁法を用いて、異なる職業の知人を通じた対象者を募集した。第二段階では、第一段階の募集者に、条件を満たす親戚や友人の紹介を依頼して、対象者の範囲を拡大した。対象者の選定は、出身地域（農村・都市）に加え、親の学歴、収入といった要素も考慮してサンプリングを行った。

4. 調査の分析

(1) 地域別（農村・都市）による：「大都市志向」VS「地元志向」

まず、農村と都市による大学進学地域に対して親の教育期待を確認する。親から聞き取ったデータから、主に「大都市志向」と「地元志向」の2種類に分類できる。

20名の調査対象者のうち、子どもの大学進学地域に対して「大都市志向」を持つケースは9名である。都市部において、多くの親は子どもの大学進学に対する「大都市志向」を持っている。その中に、収入や学歴が相対的に低くても、「大都市志向」を持っている親がいる。農村において、収入や学歴が相対的に低くても、「大都市志向」を持っている親もいる。

一方、子どもの大学進学に対する「地元志向」と考える親のケースは11名である。農村部において、多くの親は子どもの大学進学に対する「地元志向」と考えている。その中に、収入や学歴が相対的に高くても、「地元志向」と考えている親がいる。都市において、収入や学歴が相対的に高くても、「地元志向」と考える親もいる。

(2) 孤立する家族

子どもの大学進学に対する「大都市志向」を持っている多くの親は、収入や学歴が相対的に高いことがわかった。しかしながら、農村部の場合に収入や学歴が相対的に高くても、「地元志向」と考えている親もいる。では、なぜその親は「大都市志向」を持っていないのか。

まずは、事例1のインタビュー結果を見てみよう。事例1の親は、農村の出身であるが、学歴や家庭年収が相対的に高い。身分意識があつて、学校教師とのネットワークや親同士間ネットワークがないので、進学に関する情報が限られている。現実的な大学進学地域に関して「地元志向」が根強くある。

〈事例1〉A=高3の息子を持つ母親（農村出身、中卒、自営業）、I=インタビュアー
I：お子さんを大都市の大学に進学させると考えたことがあるか。

A：私は大都市の大学を詳しく知らない。「成績が悪いなら省内の大学に進学する方がいい」って村の〇〇さんから聞いた。ここ（出身地）の子どもはほとんど省内の大学に進学した。近くの大学の方が安心かな。

I：子どもの進学に対して学校の先生から何か意見をもらったか。

A：先生が私のような文化がない（学歴が低い）農村人に話かけるわけがない。しかも、うちの息子の成績は悪くて先生に嫌われている。

I：では、他の親たちとコミュニケーションをとることがあったか。

A：家の近くの一人二人ぐらいは知っている。他の親はあまり知らない。一学期一回だけの保護者会で会えるけど、保護者会が終わったら、すぐ解散する。

この会話から、事例 1 の親は、「分相応」の意識があつて、学校の先生とのネットワークを作ることに対して消極的な態度を持っているため、社会関係づくりが地域内部に限定されていることがわかる。

事例 1 の親は、同じ地域の人からもらった情報を信じ、子どもの成績では大都市の大学に進学できる可能性が低いと考えている。ローカルな「うわさ話」に覆われたコミュニケーション空間の中で、情報の非対称性があつて、弱い立場にある家族が競争社会の底辺で孤立し、周縁化する状態である。

(3) 社会ネットワークの活用

一方、都市部の場合に学歴や収入が高くない、大学進学地域に関する「地元志向」から「大都市志向」へと変わった親がいる。なぜ親の教育期待が変わったのかを明らかにしてみる。

①親同士ネットワークの効果

まずは、事例 2 のインタビュー結果を見てみよう。事例 2 の親は、都市の出身であるが、安定した仕事がなく学歴と収入が相対的に高くない。彼女は唯一人の娘を持ち、老後介護の心配があるので、最初は地元で進学してほしいと思っていたが、今は子どもが大都市の師範大学に合格できることを期待している。親同士からの影響で、大学進学地域に関する「地元志向」から「大都市志向」へ変わった。

〈事例 2〉 B=高 3 の娘を持つ母親（都市出身、中卒、アルバイト）、I=インタビュアー
I：お娘さんは今高校の寮に住んでいるか。

B：そうですね。遠いからね。毎週一時間かけて火車（汽車）に乗って娘に会いに行く。食堂の料理はそんなに美味しくないから、毎週栄養たっぷりの料理を作って娘に食べさせる。

I：毎回一人で行くか。

B：以前は夫と一緒に行ってた。でも、今は他の親たちとグループになって行く。女性グループだから、夫はたまに一人で行く（笑）。

I：どんなグループなのか。

B：その高校には、われわれ県の出身の子どもが多いから、次第に他の子どもの親たちと知り合った。火車に乗るのがつまらないので、みんな一緒に乗って子どものことを話し合う。今は彼女たちとすごく仲良くして WeChat（日本で言う LINE のようなもの）グループも作った。「師範生」ということは、そのグループの親から聞いた。私は一人娘なので、もともとは子どもに家に近くの大学に進学してほしいと思っていたが、他の親から、「師範生なら、授業料なし、将来学校の仕事も配分されるし、女の子にとって、学校の先生になるのは一番いい仕事である」と説得してくれた。

この会話から、事例 2 の親は、親同士のネットワークから大学進学に関する情報を手に入れ、他の親からの説得があつたため、子どもに大都市に進学してほしいと変化したことがわかる。

事例 2 の親は、毎週火車で子どもと会いに行っていたことを契機として、他の親たちと知り合い始めた。頻りに顔を合わせ、様々な情報を交換し、親同士のネットワーク

が形成された。親同士間ネットワーク内では、子どもの教育に関する事柄を話し合い、進学の情報流通しており、お互いに対する信頼感もあった。そして、事例2の親は、他の親たちからの意見を考慮し、子どもの進学に関して「地元志向」から「大都市志向」へ変わったのである。

②親と学校教師間ネットワークの効果

次は、事例3のインタビュー結果を見てみよう。事例3の親は農村の出身で、学歴や収入が低い。最初は大都市の大学に進学する費用を心配したので、子どもに地元で進学してほしいと思っていた。学校の先生の影響で、大学進学地域に関する「地元志向」から「大都市志向」へ変わった。

〈事例3〉C=高3の息子を持つ母親（農村出身、小卒、農民）、I=インタビュアー

I：お子さんに、将来どのような大学に進学してほしいと考えているか。

C：息子は国防大学（北京の軍事大学）に行きたいと思っている。息子の成績はすごくいいから、きっと合格できると信じている。

I：北京の物価は高いですね。大学に行く費用は心配なのか。

C：心配しました。だから、元々は近くのいい大学でもいいと思ったけど、高校の先生は、軍事大学（軍事に関する大学）は授業料が免除されるし、生徒が入学してすぐ国家からの給料をもらえることを教えてくれた。また、先生は「息子は非常に優秀で、大都市の重点大学に行かないと惜しい」と話してくれた。

I：よくお子さんの先生とコミュニケーションを取るか。

C：一学期に3、4回ぐらいかな。息子の先生は、時々家に来て息子のことを話してくれた。うちは農村で遠いから、先生は大変ですね。毎回うちの卵とか、野菜とかを先生にあげる。先生はいい人だからね。

この会話から、学校の先生から教育に関する情報を手に入れたため、進学に関する経済的な問題を心配せず、子どもの希望を支持したことがわかる。

事例3の親は、学校の先生が家に訪問することに感動して、感謝の気持ちを表すため、先生にお土産を渡すことがあった。そのように、親と教師間のネットワークが作られることによって、親は先生に対する信頼感を持った。最初は経済力の心配で子どもを地元の大学に進学してほしいと思っていたが、教師とのネットワークのおかげで、子どもが大都市の大学に合格することを期待するようになった。

5. 結論

以上のように、中国内陸部貧困地域のJ県を取り上げ、高校生を持つ親へのインタビュー調査データを用いて、高校生を持つ親が子どもの大学進学に対する教育期待とその理由について、社会関係資本の影響の点から検討してきた。得られた知見を以下にまとめる。

第一に、大学に進学する地域については、「大都市志向」を持っている親の多くは、都市部の出身で、収入や学歴が高い親である。「地元志向」と考える親の多くは、農村部の出身で、収入や学歴が低い親である。つまり、出身地域や階層要因は親の教育期待

に影響を与えることが明らかにされた。

第二に、大学進学地域に対する親の教育期待が形成される理由として、家族ネットワークから生み出された人脈、情報やコネクションという社会関係資本が、親の教育期待に影響を与えることが明らかにされた。弱い立場にある家族は、競争社会の底辺で孤立し、社会ネットワークが欠如している。その結果、教育に関する情報へのアクセスが困難である親は、子どもの将来を限定されたものとして受け止めてしまう。

第三に、親同士間ネットワークあるいは親と学校・教師間のネットワークといった家族外社会関係資本が親の教育期待を高める効果があることが見出された。親同士間ネットワークが作られる場合に、他の親たちとのつながりを持ち、お互いに進学の事柄を話し合うことで、子どもに大都市の良質な教育を受けさせるという意欲が加熱していく状態である。親と学校教師間のネットワークが作られる場合には、親の学校の教師に対する信頼感が高くなるに伴い、そのネットワークから得られた教育の情報を活用して、子どもに対する教育期待も高くなる。

以上の分析を通して、本稿では、大学進学地域に対する親の教育期待において、家族の社会背景・社会階層のみが重要な形成要因であるという従来の指摘とは異なり、社会関係の質による親の教育期待の形成を指摘できた。

学歴社会の中国において、貧困地域の人々は社会的成功を掴もうと受験戦争に巻き込まれており、学歴に階級上昇の望みの綱を託している。豊富な社会関係資本を保有する親は、大学進学地域に関して大都市志向を持ち、子どもにさらに良い都市生活を送らせることを目指している。親が所有している資本を可能な限り総動員し、子どもの教育達成を助力することで、将来に教育の収益を期待している。

一方で、社会関係資本が欠如している親も学歴を信仰しており、学業成績（業績）によって、階層を上昇させたいという期待が強い。にもかかわらず、現実的に社会ネットワークが欠如しているため、情報やコネがなく、子どもの未来を限定的に想定し、それに適応させようとする傾向がある。親は、大学進学地域に関して「大都市志向」を諦め、子どもに何とか地元の大学へ進学してほしいと考える。

最後に、本稿の限界と今後の課題を述べておきたい。調査対象者を特定地域出身者に限定しているというサンプルの制約があり、今後調査対象の範囲を拡大することで、大学進学に関する親の教育期待と子どもの学力達成との関係に更に迫れると考えている。

注

1 「望子成龍、望女成鳳」は中国の古い諺で、息子が龍になることを願い、娘が鳳凰になることを願うという意味である。子どもが学問や仕事で成功または出世することを願う親の気持ちをいう。

2 中国では、1958年に戸籍管理制度が成立した。戸籍を大別すると「農村戸籍（農業戸籍）」と「都市戸籍（非農業戸籍）」に分類される。両親が「農村戸籍」なら子どもも「農村戸籍」となる。農村戸籍と都市戸籍に含まれている公共サービスや社会福祉の格差は存在している。2010年に行われた第6回中国人口センサスによると、全国で、都市人口は49.68%、農村人口は50.32%である。

3 中国教育部が人材育成の国家戦略的な政策として、「211プロジェクト」と「985プロジェクト」という二つの大学重点政策が策定された。江西省では、「985プロジェクト」に入っている大学は設置されておらず、「211プロジェクト」に入っている大学は1つしか設置されていない。

4 中国では行政機関の規模が大きい順から省→市→県→郷→村となる。省・市・県は都市ランクで、郷・村は農村ランクである。

5 教育の質を高めるために、2007年に中央政府はいくつの重点師範大学を指定し、「無料師範生制度」を実施した。政府は、実施された師範大学の入試に合格した学生に学費と寮費を免除し、毎月生活費を補助する。そういう学生は、卒業したら小中学校で少なくとも10年間（最初の2年間で農村部の学校で働くことは必要）働かなければならない。

6 中国において、大学は普通の大学と軍事大学に分けられる。軍事大学は、人民解放軍や武装警察部関係の人材を養成することを目的とした教育で、重点的財政支援の対象になる。そのため、軍事大学には、授業料免除や生活補助などの優遇政策がある。

参考文献

- 荒牧草平, 「社会意識の形成に対するパーソナルネットワークの影響に関する検討課題—子どもに対する親の教育期待に着目して」『日本女子大学紀要』27:23-37, 2016.
- 王甫勤・時怡雯, 〈家庭背景、教育期望与大学教育獲得—基于上海市調查数据の実証研究〉, 《社会》34:175-195, 2014.
- 許敏, 「中国における家庭環境の変容と両親の教育期待の形成—大連市での質問紙調査に基づいて」『東京大学大学院教育学研究科紀要』39:185-194, 1999.
- 金久仁, 〈从資本差距到場域隔离—城乡教育的家庭支持差距研究〉, 《教育科学》35:1-8, 2019.
- 黄瑞芹, 〈中国貧困地区農村居民社会ネットワーク資本—基于三个貧困县的農戶調查〉, 《中国農村觀察》1:14-21, 2009.
- Coleman, J. S. (著) 金光淳 (訳), 「人的資本の形成における社会関係資本」野沢慎司 (編・監訳) 『リーディングスネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房, 205-241, 1988.
- 佐藤嘉倫 (編著), 『ソーシャル・キャピタルと社会』ミネルヴァ書房, 2018.
- 張建, 『中国の教育格差と社会階層—中等教育の実像』東京電機大学出版局, 2021.
- 中澤渉, 「母親による進学期待の決定要因—マルチレベル分析による検討」(学校教育に対する保護者の意識調査2008報告書)『研究所報』Benesse 教育研究開発センター (編) 50:82-93, 2009.
- Lin, Nan (著) 筒井淳也、石田光規、桜井政成、三輪哲、土岐智賀子 (訳), 『ソーシャル・キャピタル:社会構造と行為の理論』ミネルヴァ書房, 2001.
- 松岡亮二, 「高校教育におけるソーシャル・キャピタル格差」露口健司編著『ソーシャルキャピタルで解く教育問題』ジダイ社 pp. 151-175, 2019.
- 李強・孫亜梅, 〈去哪上大学?—高等教育就学地選択的影响因素研究〉, 《清华大学教育研究》39:38-46, 2018.
- 李国強, 〈家庭关系資本:家校合作的重要因素〉, 《中国教育学刊》11:21-24, 2009.
- 刘保中・張月云・李建新, 〈社会經濟地位、文化觀念与家庭教育期望〉, 《青年研究》6:46-92, 2014.
- 刘昊・潘昆峰, 〈中国大学生就学省際迁移模式研究〉, 《中国人口科学》1:90-128, 2016.
- 范成杰, 〈城市居民个人背景与職業适应性研究—以杭州市為例〉, 《社会》1:98-111, 2006.
- Putnam, R. D (著) 柴田康 (訳), 「孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生」柏書房, 2006.
- 藤原翔, 「現代高校生と母親の教育期待—相互依存モデルを用いた親子同時分析」『理論

中国内陸部貧困地域における高校生を持つ親の教育期待—江西省 J 県を事例に—

と方法』24 : 283-299, 2009.

辺燕杰, 〈城市居民社会資本的来源及作用—网络觀點和調查作用〉, 《中国社会科学》3 : 136-208, 2004.

竇心浩, 「1990 年代における中国高等教育機會の地域間格差—省別学生募集制度に着目して—」『教育社会学研究』80 : 11-30, 2007.

鮑威, 〈大学的門檻: 升学選擇背后的約束因素与分析〉, 《教育發展研究》7 : 24-30, 2010.

趙延東・洪岩璧, 〈社会資本与教育獲得—网络資源与社会閉合的視角〉, 《社会学研究》5 : 47-68, 2012.

張意忠, 〈城乡家庭資本差异对子女高等教育需求的影响〉, 《高等教育研究》8 : 22-25, 2016.